

令和2年度 綾部市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和3年2月5日(金)
開会 9時25分 閉会 11時20分
- 2 会 場 綾部市立綾部中学校 会議室
- 3 出席者 綾部市長 山崎 善也
綾部市教育委員会
教育長 足立 雅和
委 員 小南 直美
委 員 波多野 芳雄
委 員 樋口 高夫
委 員 大島 友紀子
(事務局関係)
市長公室長 岩本 正信
教育部長 小林 治
学校教育課長 村上 哲也
社会教育課長 立藤 江理
学校教育課長補佐(指導主事) 森本 重則
学校教育課課長補佐 斉藤 さおり
学校教育課学務指導担当長 松下 修
- 4 協議事項 「あい」のある未来の教室に向けて
～綾部市の GIGA スクール構想の具現化～
- 5 議事の概要
 - 開 会
 - キャリア教育講演会 視聴
 - 綾部市長挨拶
 - 報告事項
 - GIGA スクール構想に係る環境整備の状況について

○ 協議事項

<議長：綾部市長>

「[あい]のある未来の教室に向けて～綾部市の GIGA スクール構想の具現化～」について、事務局から説明をお願いします。

(プレゼンテーション：学校教育課 森本指導主事)

<議長：綾部市長>

ただいまの事務局の説明を踏まえまして、皆さんからご質問や確認、一人一台の端末を活用した学習が始まることについての思いやお考えをお聞きしたいと思います。

<樋口委員>

ICT 教育を推進していくにあたって、教員の研修についてプロジェクトチームを中心に推進中ですが、熟練度の違いによって導入期には差が出てしまうと思われれます。指導の仕方により子どもの学力に影響が出てはいけけないので、できるだけ克服して授業に当たっていただきたいと思います。

プロジェクトチームで授業に関する研修は進められていますが、操作の上でトラブルが生じた際に、サポートをする人が必要かと思いますが、そのような人材の配置は考えておられるのでしょうか。また、そのような人材の確保は可能なのでしょうか。

<事務局>

授業においてトラブルが起きた際のサポートについては、十分な体制をとるのが良いと思います。しかしながら、プロジェクトチームには各学校から1名選出して研修を積んでいますので、トラブルの解決もできるようになるのですが、他の先生方についてはそこまで育っていないのが現状です。

対応策としては、放課後に事後研修の形で、教員が情報共有したり、十分な教材準備を行ったりすることで、職員のスキルを少しずつ上げていきたいと考えます。

<事務局>

現在はプロジェクトチームを中心にしていますが、来年度以降はこの活動を教務主任会や学校教育研究会の情報部会に先生方とリンクしていき、今、先生方が学んでいることや今後学んでいくことをどんどん波及させていきたいと考えていますので、学校の中で熟知している先生がより増えていこうと考えています。

スタート時点が厳しいことは確かにありますが、その後は何人かの先生がこまめにフォローできる方が出てきますので、来年度中にはスムーズにいくと思いま

す。

<波多野委員>

「あいのある未来の教室に向けて」というテーマを掲げていただき、あいのある学習が継続されていくのだということを楽ししく思いました。また、「タブレットが導入されて、それを子どもに使わせればすごく学力が上がっていく」とはならないということがよくわかりました。

あいのある学習の中では授業を大事にとということで、教師と教材と子どもの三者の相互の関わり合いによって授業が成り立っていくということがベースになっています。その中で、教師のレベルアップだけでなく、タブレットも含む教材のレベルアップ、さらにその使い手となる子どものレベルアップ、これが三位一体で行われないと学力の向上や授業の改善には、なかなかつながっていかないのではないかと思います。そういうことを強く感じましたし、先ほどの説明ではそれぞれを考えていただいていることが嬉しく思いました。

さらに加えて言うならば、家庭へ持ち帰ることを考えると、家庭や地域が授業の構成要素の4番目の担い手として配慮していかなければならないと思います。そうすると保護者がどのように子どもたちがタブレットを使っているのか、どう使って学ぶことができるのか、保護者も簡単な使い方を知っておく必要があると思います。今の社会状況ではみんなが集まるのは難しいので、なかなか良い方法が提案できませんが、PTAを通して保護者の研修会も考えていく必要があるのではないかと思います。教材のレベルアップ、子どものレベルアップ、教師のレベルアップ、特に教師のレベルアップにばかり目が行くことがあるかもしれませんが、三者がそれぞれタブレットを使った学びを進めていく、能力を高めていくことを大事にして取り組みを進めていただけたらと思います。

<小南委員>

さきほどの説明の中に、令和3年度、令和4年度そして3年後と目標が定められており、少しずつ全小中学校が同じレベルで、クリアできる目標設定をされていることに安心しました。先生の知識、技術、熱量にも差がある上に、今年はコロナ対応でたくさんのご苦労をさせていただいたのに、さらに来年はこのタブレットのことでご苦労をおかけするなあと思いましたので、無理のない範囲というところと全く進まないで少しは無理をしていただかなければなりません、ICTが苦手な先生もやる気になれるような取り組みがあるとよいなと思いました。

また、綾部市の教育は、人と人との対面でのふれあいを大切にしてきたので、どんなにこのタブレットが普及しても心の教育だけは大切にしたいと思います。

<大島委員>

段階的に、学校で子どもが先生と一緒に学んでから、少しずつ家庭へ持ち帰ると聞いて安心しました。今回のGIGAスクール構想の中で個別最適化の学び方・

考え方とこれまでの「あいのある学習」であったり、みんなで一緒に学ぶという協働的な学びであったりということが結び付きにくく感じました。保護者としては、個別最適化の言葉だけを聞くと、できる子はどんどん新しいことに取り組んで、そうでない子との格差が生まれるのではないかという心配と、タブレットではこれまでの協働的な学びが難しいのではないかと感じました。けれども説明の中で、個別最適化の学びは、一人ひとりにあった丁寧な指導やかかわり方をしていけば子どもたちは伸びていくし、タブレットを活用しながら学びあえるということが理解できました。

このことを保護者への周知や地域への理解について、参観日や懇談会等の学校行事が開催されにくい状況の中で、今後どのように知らされていくのか、どのように理解していけばよいのかという不安な部分もありましたが、これも段階的に進めていかれるという説明に安心しました。

質問として、子どもたちをいじめや犯罪などから守るためのセキュリティやアプリについて、どのようになるのか教えていただきたいです。

<事務局>

セキュリティに関しては、インターネット上にフィルタリングを設定していません。また、メールは許可をしないこととしています。フィルタリングはカテゴリごとに行い、教育用途では想定しない内容や違法性のあるような内容については制限をします。

また、勝手にアプリをインストールすることはできないようにしており、先生方で必要なアプリであれば、管理者がインストールすることとしています。

<事務局>

委員の皆様から貴重なご意見をいただきありがとうございます。主体的・対話的で深い学びを授業の中で目指していかなければならないということで、先ほどの説明の中にもありました先進的な事例のような授業を私たちも目指していきたいと思います。

そのために、タブレットはあくまでツールとして、子どもたちの思考が深まるような授業を目指していきたいと考えております。多額の費用を投入していただいておりますので、一日も早くタブレットが有効に活用できるように授業改善を行っていきたいと考えます。

<教育長>

この綾部中学校は現在とても落ち着いています。ご存じのように平成19年から平成23年にかけて、綾部中学校は大変荒れました。その当時の中筋小学校、吉美小学校も生徒指導上の困難な時期が続いていました。平成24年、私が教育長になった頃、やっと落ち着きを取り戻しつつありました。しかし、いつ来ても、どの教室を見ても授業の一時間中顔を伏せて寝ている、授業に入っていない生

徒を見てきました。なぜこんなことが起こるのか。それは「授業が分からない、わからないから面白くない、だから起きていることができない、何よりも自分がいなくてもその授業は進む。自分の存在感がその授業の中にある」というような状況でした。

その時に、指導主事をしておられました波多野委員が「あいのある学習」という授業改善の理論を提言されておりました。それは、昔の授業とは違い、子どもたちがあくまで主役で、子どもたち同士で話しあい、教えあい、言いあい、練りあい、高めあっていく授業で、そのためにグループ学習やペア学習を積極的に取り入れました。あくまで先生はそれを支援するサポート役に回っていただくことをしていきました。

中学校が荒れている頃の学力は、とても平均点まで届かず、小学校は平均点のあたりでした。京都府内では長岡京市や向日市といった市の学力が高く、その要因は塾の存在でした。それらの市には、中学校や有名私立高校への受験のための塾がありますので、上位層が思い切り平均を引き上げます。当時は綾部市で塾に通う子は数えるほどしかいませんでした。

そのような中で、私たちは徹底的に「あいのある学習」を進めていき、子どもたちの学力を向上させてきました。学力充実ヒアリング、ブロック管理職研修会等において、学力向上にこだわってきました。現場の教員も市教委もベクトルを同じにして取り組んだ結果、平成28年には京都府の学力診断テストにおきまして、綾部中学校が府下トップの成績を収めました。本庁の指導主事の間では綾中の奇跡と言われました。綾部市内でも、中丹でも、京都府でも一番荒れていた綾部中学校が短期間でトップの成績となったのです。そして平成30年あやべ市民新聞10月3日に「綾部市の子ども 小学校も中学校も全国でトップ」という記事を書いていただきました。現在も、「あいのある学習」に取り組むことのできる小学校、中学校において、落ち着いた授業が進められています。

ところが、今、危機感を抱いております。理由はタブレットです。タブレットが学校現場に入ってくることによってどうなるか。財政当局は多額のお金を投入したので早く、すべての授業で使用してほしいと言い、議員さん方は現在コロナで学級閉鎖をしている子どもにリモート授業をしてほしいと言われます。

今後さまざまなプレッシャーがかかるとは思いますが、それが学校現場へ波及すると授業が荒れます、授業が荒れたら学力が落ちます、学力が落ちたら学校が荒れますので、このようなことにならないかすごく心配をしています。何としてもこれから1年間は、タブレットを使用しながら十分な研修を重ね、タブレットはあくまでツールとして使い、本来の目的は学力を上げること、高い学力を維持することということを忘れないように取り組んでいきたいと思っております。

教育委員会は防波堤になって、周りのプレッシャーから学校を守り、「あいの

ある学習」にタブレットを使っていくことに徹していかないと本来の目的を見失ってしまうのではないかと考えて、学校現場とともに一緒に頑張っていきたいと思います。

<議長：市長>

本日のテーマについては以上ですが、せっかくの機会ですので学校教育や社会教育の全般にわたって、皆様方が日ごろお感じになっていることをご発言いただきたいと思います。

<樋口委員>

このコロナ禍で社会の状況も非常に変化して、実施が困難なことも出てきています。その一つに、綾部市の図書館の整備について、当初の計画の進捗が望めなくなったということで新たな計画の練り直しがされているようです。私たちの町はそんなに大きな町ではないので、身の丈にあった整備を関係者の皆さんで考えておられると思いますが、より良い図書館づくりのために現段階ではどのようなになっているのでしょうか。

<議長：市長>

図書館については、市民の方の声も聴きながら検討会を重ねていましたが、その間に市内のホテルが閉館になり、100人から200人規模のホール機能が綾部からなくなったということを受けて、単独での図書館建設という構想から、ホール機能を一体的に整備する計画となりました。

さらに、宿泊の部分を民間事業者が綾部駅の北側に進出したいということと相まって複合ビルとして、図書館とホールとホテルの整備という計画変更をして進めていました。ところが、そこに誰も予想していなかったコロナウィルス感染症の拡大がおり、昨年の秋にホテル事業者から撤退の申し出があり、計画の見直しを余儀なくされました。

今の状況は、図書館とホール機能、それに加え、工事費や事後の管理費の面からも考えて節約できる部分がありますので、以前から要望があった雨天時に子どもたちが遊べる施設を一体的に整備する計画を前提にして、今、プロジェクトチームを作って検討しています。

今年の3月議会の令和3年度当初予算において設計費について上程して、議会の承認が得られましたら、令和3年度に設計、令和4年度から1年半くらいかけて建設という工程で進めているところです。

<樋口委員>

ありがとうございました。大変すばらしい計画が進んでいることを聞いて安心しました。かねてから幼児の遊び場があればいいと思っていましたので、期待をしております。

<波多野委員>

今年度、キャリア教育の視点から子どもたちに「自分の夢」を調査していただいたと思いますが、キャリア教育の一部分として、子供たちが自分を知るとか自分を残すということを大事にしてもらえたらどうかと思います。この夢調査を毎年繰り返して、それをタブレットに残して、自分の夢がどんなふうに変わっていったのかを知る、あるいは授業で作成した作品、顔写真や読書の記録などを残して、中学3年生の卒業するときに、例えば、「10年後の私へ」というようなメッセージを作成して、ハードディスクに落として生徒に渡すという個人データの蓄積ということをキャリア教育の一つとしてはどうかと思います。

また、平成10年ごろに中上林小学校が中心となって文部科学省の指定を受けて、テレビ会議システムを導入して他校との交流授業に取り組んでいたことがあります。先ほどの講演会が全校一斉にリモートでできたことから、市内の小規模校で複数の学校で交流授業ができるのではないかと思います。

教師の負担軽減や子どもの学びの機会を増やすという面から、そういうことができないか検討いただけたら嬉しいです。

<小南委員>

コロナ禍で市役所の方も大変だった中で、成人式を開催いただいたことがとてもありがたく嬉しかったです。「コロナだからできない、コロナだからあきらめよう」ではなくて、「コロナの中で何ができるか、どうやったらできるか」を前日まで考えて開催していただいた、その姿を子どもたちが見ていて、そんな大人になりたいと思うのだらうと思いました。

子どもの1年は大人の10年ぐらい価値があって、今しかできないことがたくさんあるので、これからもあきらめずにたくさんの子どものことを子どもたちにさせてやりたいとも思っています。

「壁にぶつかっても負けずにたくましく育ってください」と成人式のメッセージに毎年書いているのですが、やはりそういう心を育てるのは20歳までの若い心の方がすごく効果があると思うので、小中高の教育は大切だと思います。

また、大人もそういう生き方ができるように社会教育も含めて頑張っていたきたいと思います。

<大島委員>

GIGAに関わって、今回のコロナウィルス感染症拡大で日本ではオンライン授業ができる学校がとても少なく、日本の教育は世界では遅れているという情報ばかりが印象に残る状況でした。

今までの教育がだめだからではなく、これまでの素晴らしい教育をさらに新しい取り組みで子どもたちの力を向上させていくためにICTが導入されるのだということがもっと強く伝わればよいと思います。

あるものを活用するのではなく、新しいものを使ったり、新たに何かを作りだ

したりするときには想像力が必要だと思います。その想像力には小さいころからの経験が必要ですので、今後も様々な体験や経験をさせるこれまでの教育をもっともっと大切にされると良いと思います。

<議長：市長>

これまでのご意見について、事務局から何かありますか。

<事務局>

貴重なご意見をありがとうございました。いただきましたそれぞれのご意見をこれからの事業に反映させていきたいと思っています。

<議長：市長>

終わりに当たり、私からも一言申したいと思います。市長として12年目になり、この間、教育に予算を傾斜的につけてきました。施設の耐震化、小中一貫校建設、空調設備設置、完全給食実施、そして今回のGIGAと財政協議の場においても突出したものでした。それぞれの立場からいろんな議論がありましたが、私としては、「我々が次に残せるものは何か」と考えたら、やはり教育だと思い、かなり意識して傾斜配分してきました。当然、道路関係や農業関係等不満の声はあるかと思いますが、このことを私の軸としてきました。

今回のGIGAも、コロナウィルス感染症拡大ということもあり、高度な政治判断として決定されたこともあり、文科省でさえこのような前倒しになるとは思っていなかったがゆえに、実施しなければならぬ各市町の教育委員会も現場の先生もこのコロナ禍の中で本当に大変な1年であったと思います。

もう少し京都府教育委員会がリーダーシップをとってくれたらと思う部分もあります。全国市長会や京都府市長会の中でも、最初の予算協議の時点から、タブレットの金額や整備費用、今後の更新、家庭へ持ち帰ればその通信費等々いろいろな課題があったのですが、そこまで考えるとせつかくの前倒しによる導入ができなくなるので、そこは3年後にもう一度協議するという文部科学大臣の言質も引き出す中で、今回の環境面の整備とタブレットについてやろうということになりました。

当然、ハードだけでなくソフトの面でも議論があったところです。

一方で、教育委員さん方もおっしゃったように、「伝統的な教育が否定されるものではない」、そこをはき違えてはいけないと思います。OECDの統計調査は非常に誤解を招く数字で、日本がいかにも遅れているかのような、教育が十分でないというようなイメージを与えます。日本のようにいろんな地方がある中でこれだけの学校教育の水準を維持してきたのは、学校の先生がしっかりとした資質を身に付けてきたからです。それが十分できなかった国がICT教育を一気に進めたと考えます。これまでの日本の伝統ある、一つ一つが手作りの教育をやはり大事にしていかなければならないと考えます。

綾部市では、この4月から第6次総合計画が始まります。そのスローガンは「ひとりひとりの幸せをみんなで紡いで実現できるまち綾部」です。これが小さな町、顔の見える関係性の構築できる大都市ではないまちづくりの基本だと思います。これからの10年のまちづくりは、「あいのある教育」と両輪だと思っていますのでよろしくお願いします。

このことを付け加えまして、総合教育会議を終了したいと思います。

- 閉 会
- 教育長挨拶